

100年先未来プロジェクト第1回討論会開催報告

1. 総括

100年先未来プロジェクト第1回討論会を、2017年6月24日に開催した報告をする。16名の方にご参加いただき、有意義な討論をしていただいた。参加者からは、「**討論が面白かった**」、「**普段とは違う目線で物事を考える機会になった**」という声が聞かれた。一方で、今回は自由に議論を進めていただいた故に、「**議論の進め方が難しかった**」、「**前提条件があればよかった**」などの意見もあり、**今後、討論会の質をより高めていく必要がある。**

2. 開催スケジュール

【午前の部 10:30~12:30】

1-1) 導入(グループでなく、全員参加) 10:30~11:00

・挨拶、本日のスケジュール確認、昨年度のバイオテクノロジー分野の読み合わせ

1-2) 討論①理想のバイオテクノロジー像を考える 11:00~11:55

・事前課題(理想の地球に近づくためにバイオテクノロジーで解決したい課題)をグループ内で共有
・事前課題で考えた課題を解決する方法を具体的にバイオテクノロジーの技術に落とし込んで考える
・理想のバイオテクノロジー像について、各班から口頭で報告(1班 3分程度)

1-3) 討論②論点について議論の土台を作る 11:55~12:30

バイオテクノロジーの理想には、課題も多い。課題を考えたときの理想の実現方法を討論する。

課題1:寿命が延びる社会のメリット・デメリット、理想像

課題2:デザイナーベイビー(遺伝子操作)のメリット・デメリット、理想像

昼ご飯

中華茶房8

【午後の部 13:30~16:30】

2-1) 討論② 午前中の討論内容を踏まえて理想像を描いていく。13:30~15:15

お互いに納得できるところと、そうでないところを冷静に分析して解決策を見出していく。100年先という視点を忘れずに、理想を自由に話しあう。

2-2) 最終発表 15:15~16:00

・それぞれの班の描くバイオテクノロジーの100年先の理想像とは?
(発表だけでなくチーム間での質疑応答・議論も行う)

2-3) 理事長講評 16:00~16:10

2-4) まとめ 16:10~16:20

・講評、優秀グループ発表、今後の100年先未来プロジェクトの方向性など

3. 討論会の結果

討論会は、3グループに分かれて行った。

討論会①として、100年先の地球の理想像とバイオテクノロジー分野で解決できるものを挙げていただいた。表1に討論で出た意見の抜粋を示す。今回の討論時間は、40分程しか無かったため、深い議論はできていないが、各班からは違った視点で意見が出された。また、**100年先を考えた場合、1人1人の意見や捉え方が全く違うこと、それぞれの性格や考え方が色濃く反映されることが浮き彫りになった。**

討論会②として、以下の課題に取り組んでいただいた。

課題1:寿命が延びる社会のメリット・デメリット、理想像

課題2:デザイナーベイビー(遺伝子操作)のメリット・デメリット、理想像

チーム男子は、**寿命が延びることは必ずしもいいことではなく、反動で自殺者が増えるなどの問題が起きるため、むやみに寿命を延ばす社会には反対**という意見であった。

チームアンチエイジングからは、**健康寿命を延ばす社会が理想**で、諸問題を解決する技術も同時に開発していくべきというものであった。

チームボジネガは、「**持続可能な地球**」のためには、**寿命が延びることで発生する諸問題に対応可能な技術が確立しない限りは、むやみに寿命を延ばすことは無責任**であるという意見であった。

表1. 討論①の意見抜粋結果

理想像	バイオテクノロジーで実現できそうなもの
1人1人が違うのが 当たり前の社会	植物の成長速度増加などで完全自給自足
	男女の入替り
資源に困らない社会	住みたい場所、行きたい場所にいつでもいける (脳情報のみの移動)
	人工の葉緑体
寿命が延びる 病気が治る社会	海水を飲料水に簡単に変える技術
	水蒸気を体に取り込む 障がいや治すことができる
	スーパーマンが生まれる
	精神だけで、肉体は交換しながら生きていける 手がもう1本増える
精神・知識・経験の 共有	脂肪を燃焼しやすくする
	先人の知識を簡単に共有できるようになる (脳記憶量増大 機能UP 外部機器との接続)

表2. 討論②の意見抜粋結果

チーム名	発表要旨
チームA: チーム男子	寿命が延びた社会では、反動で死を望む人が増えるのではないかと? 寿命は無理に延ばさず今ある有限な生を全うさせるものがよい
チームB: アンチエイジング	寿命が延びる社会でも、健康寿命を延ばすのが理想。食糧・資源の不足に関しては、新技術で対応。持続可能な地球を考えた場合、人口増加、資源の問題、地球環境の問題を解決せずに、寿命を延ばすことは無責任では?
チームC: ボジネガ	デザイナーベイビーもメリット・デメリットがあるが、両方をよく考えたうえで導入を決めていかなければならない。

4. アンケート結果

【運営への評価】

表3に運営への評価を示す。

- 運営への評価としては、「**運営がスムーズ**」との**評価が多かった**。スケジュール通りに進行ができたことや、大きなトラブルなく終えることができたことを評価していただけていると思う。
- 一方で、**論点の定義や前提条件が不明確な点があり、議論が迷走してしまったグループもあった**ようだ。

○投票システム好評であった。

○HP、twitter、FBでの結果報告もどんどん行っていきたい。

【勉強になったこと】

表4に参加者の声を示す。

- 人それぞれ違う視点、見方があることがよく分かったという声が非常に多かった**。世代間の差や社会人と学生の差など、大変参考になったという意見があった。

○議論の方法やゴールの設定などをしていく過程は普段は経験しないので、勉強になったという意見もあった。議論の仕方が苦手な日本人にとっては、貴重な機会になったようである。

表3. 運営への評価

運営への評価	人数
運営がスムーズであった。	5
論点の定義、前提条件の提示、チェックポイントがあった方がいい	5
投票システムもよかった。	2
HP,twitter,FBでの公開もやってほしい	2
時間がすくなくかった	1
参加者の多様性がほしい	1

表4. 勉強になったこと

勉強になったこと	人数
様々な視点があること	6
議論の方法・ゴールの設定方法	3
理想をより深く追求していくこと	1

5. 費用

表5に費用結果を示す。今回の討論会では、優秀チームへの景品代として、1,350円の出費のみであった。(A3用紙やペン、名札ケースなどは、TEAM挑戦備品から借用した)

表5. 決算結果

勘定科目	決算額	摘要	予算額
A3用紙購入		500枚入り (本プロジェクト以外でも使用できるもの)	825
賞品	1,350	MAMANO マジユマロシエ	1,500
予備費		印刷費用など	2,675
合計	1,350		5,000

6. 今後の対応

今回の討論結果を受けての反省ポイントと今後の対応を下記に示す。

○アドバイザーの役割として、**予測でなく理想を議論できるように積極的に促す**。

○自由な議論が重要であるが、**ある程度の前提条件や予備知識、定義をできるだけ明確にする**

⇒各グループ毎に決めるべき前提条件を提示して、それを決めながら議論を進めていくなどの方法を検討。
⇒議論が迷子にならないように、事前にアドバイザー間で前提条件や定義を共有するなどの方法も検討する。

○**アウトプットの形を示すことで、議論の途中でチェックポイントを設けられるようにする**。

例) 100年先のバイオテクノロジーの理想をかなえるために、投資してほしい技術をプレゼンする。
100年先のバイオテクノロジーの理想像を小学生に説明するなど

○メリット・デメリットを考えるのであれば、ディベート形式で行い議論を深めることも選択肢の一つ。

○海外の方も参加できるようにする。

○webで議論できるようにしていく。

○アドバイザーの教科書及び評価方法、アドバイザーランク方式を次回以降で確立していく。